

令和３年　２月臨時市長記者会見

日　　　時：令和３年２月９日（火）　午後２時～

場　　　所：射水市役所会議室４０１

報道出席者：北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞、読売新聞、北日本放送、
NHK 富山放送局、富山テレビ放送、チューリップテレビ、
エフエムいみず、庄東タイムス、ホットライン KOSUGI

当局出席者：市長、企画管理部長、財務管理部長、産業経済部長、
企画管理部次長、産業経済部次長、未来創造課長、
商工企業立地課長

○質疑応答の概要

Ｑ１．　キャンペーン期間を明日（２月１０日）までとした理由について伺いたい。

Ａ１．　周知期間は余裕があったほうが良いというご意見も理解できるが、一部店舗において大変な混雑の中、新型コロナウイルス感染症の感染リスクの回避や交通渋滞の発生による安全安心の確保が困難な状況が、終了の日まで継続されてしまうため、早期にリスクを回避すべきであると考えた。

Ｑ２．　早期終了の理由として挙げた「一定のポイント還元額に到達する見込み」というのは、国の交付金の２億円を使い切りそうだということなのか。

Ａ２．　正確な数字は事業者からの詳細な報告を待たなければならないが、週末の状況から、２億円にかなり近い数字、場合によってはそれを超える数字になっているのではないかと推定している。

Q 3. この事業には全国でもまれにみる反響があったということだが、それには富山市と高岡市に挟まれた立地など、射水の特異性が関係しているのか。

A 3. 富山市・高岡市などの大きな人口を抱える地域をはじめ、他のエリアからのアクセスが容易だったことも要因であったと考えている。また、これまで南砺市・高岡市・富山市で既に同様のキャッシュレス決済・ポイント還元事業が実施されていたので、PayPay の利用がかなり浸透していたのではないかとということも要因として考えられる。また、1 月には、大雪や国の緊急事態宣言、県のロードマップのステージ 2 への移行、飲食店の時短営業要請などにより、消費マインドが低下していた中で、2 月に入り大雪の影響も緩和され、キャッシュレス決済・ポイント還元事業としては今年度最後と思われる射水市の事業に多くの方が集中してしまったということもあるかと思う。また、事業者と連携しながら様々な広告・PR を行ってきたことも、思った以上に効果があったのではないかと考えている。

Q 4. 仮に 2 月 28 日までこのまま事業を継続していたら、2 次補正の財源をさがすのも相当苦勞する可能性はあったか。

A 4. 予算の 2 億円は国の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金から財源を得て計上している。例えば高岡市は 2 億円の計上に対し最終的には 2 億 8 千万で決算していたと思うが、その部分についても高岡は補正予算として計上しているので、予算の 2 億円を超える部分については、本市としてもそういった対応をしなければならないと考えている。今後の追加の予算措置が必要な場合については、議会と相談していきたい。

Q 5. もう一度同様の事業や別の経済対策をする予定はあるか。

A 5. 事業者に対しては先に仕入れで発注をかけてしまったケースもあるかと思うが、市としてはこれに充てられる具体的な事業はなかなか見当たらない。ただ、キャッシュレス決済を導入するにあたってバーコードを読み取る機器を導入した経費については、現在実施している射水市中小企業等事業向上補助金を充当することが可能である。当初2月15日を申請期限としていたが、この状況も踏まえて、2月いっぱいまで申請を受け付けることとした。また、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた市内事業所への様々な支援・経済の活性化への取組みを今後新たに検討し、タイミングをみながら打ち出し、実施できればと考えている。

Q 6. 大きな反響の要因には30パーセントの還元率もあったかと思うが、他の市が20パーセントの還元率だった中、30パーセントに設定した理由は何だったのか。

A 6. まずは新しい生活様式としてキャッシュレス決済を射水市に定着させたい、また、新型コロナウイルス感染症の影響により市内の各店舗において低迷している消費を喚起し、経済を刺激するため、より効果がある条件として30パーセントと設定した。30パーセントという設定が高すぎたため早期終了という事態になったのではないかということも言えるかもしれないが、もともとこの条件で事業を行った場合、想定される予算も含めた公募で、事業者から2億円という話があった。またその後のヒアリングで、全国で同様の事業をやっている中で、かなり信ぴょう性の高い数字だというお話をいただき、2億円を計上した。30パーセントが良かったのか悪かったのかは結果論でしかないが、こうした早期終了という大きな混乱を招くことになったことについては、もう少ししっかりと考えるべきであった。

Q 7. 相談窓口は早期終了に合わせて明日（2月10日）で終わるのか、今後の対応も含めて2月いっぱいまで開設するのか。

A 7. 様々なご相談を受け付けるため、今月いっぱいまで設置を継続する。

Q 8. 市民の方から市役所への具体的なご意見があったのか。

A 8. 事業者の方や市民の方から様々なご意見をいただいている。交通渋滞によって市内の移動に迷惑がかかった、レジに長蛇の列ができて市内で買い物ができず市外の店舗に行って買い物をしなければならなかった、こういった混乱状況を何とかしてほしいというご意見をいただいた。

Q 9. 交通渋滞で迷惑がかかったというのは、事業所からの意見なのか、市民の方からの意見なのか。

A 9. 事業者ではなく、買い物に関係のない通常の移動をされる方からそういった意見をいただいた。

Q 10. キャッシュレス決済推進のために、何か新しく代替事業を実施する考えはあるか。

A 10. 他市で同様の事業を行ったり、事業者側もかなり店舗への PR や営業をされたりしている中、市内でのキャッシュレス決済の導入はかなり進んだのではないかと考えている。キャッシュレス決済の普及を念頭に置いた事業に、これだけの効果があったことを考えると、新しく代替事業を実施する必要はないのではないかと思う。ただ、今後、新たな経済対策をしていく中で、例えばこれまでの経済対策としてあった地域限定の商品券の取組みを、現在構築中の市公式 LINE に登録した人にクーポンという形でお知らせするという事は技術的には可能になると考えている。今後、早期終了したキャッシュレス決済・ポイント還元事業に代わる新たな経済対策としてそういうことを導入するかどうかはまだ検討中だが、地域の皆さんへ支援を届けることを念頭に新たな対策についてしっかり検討したい。

Q 1 1. バーコード読み取り機に対する射水市中小企業等事業向上補助金の充当について、これは今回の事態を受けて特別に補助するわけではなく、既存の制度の申請期限を、今回の事態を受けて延長したということなのか。

A 1 1. 射水市中小企業等事業向上補助金について、キャッシュレス決済導入の際のバーコード読み取り機は当初から補助の対象であり、キャッシュレス決済・ポイント還元事業の早期終了を受けて、2月15日までとしていた申請期限を2月28日まで延長した。

Q 1 2. 大型店舗への消費者の集中や、県外・市外からの消費者の集中については、どのように見通していて、結果を見てどう感じたか。

A 1 2. 市内に本社を持つ大型食料品店もあることから、実施店舗についてはできるだけ広く実施をしようと考えていた。大型食料品店やドラッグストア・コンビニだけではなく、地元の中小の店舗でもキャッシュレス決済・ポイント還元事業の効果がみられるところがあった。

Q 1 3. 事業の早期終了の要因として挙げている4つの要因には、新型コロナウイルス感染症の影響によるものと予算の影響によるものがあるが、コロナの影響のほうが大きな要因なのか。

A 1 3. 新型コロナウイルス感染症の感染防止を最優先にしなければならない中で、市民・店舗の従業員・消費者の方々に不安な思いをさせてしまい、早期に何とかしなければならないということで早期終了を決断した。予算への懸念もあったが、新型コロナウイルス感染症の感染リスクを回避できない状況を何とかしなければならないという思いが強かった。